



安芸太田町建第 52 号
平成 19 年 4 月 27 日

国土交通省道路局長 様

広島県安芸太田町長
佐々木 清蔵



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

先般依頼のありました中期的な計画に対する意見は別紙のとおりです。
少子高齢化、過疎化が進む中山間地の状況も「中期的な計画」に反映して
いただけるよう強く望んでおります。

担 当 者

〒731-3810

広島県山県郡安芸太田町大字戸河内 784-1

安芸太田町 建設課長 島川誠司

TEL0826-28-1962 FAX0826-28-1218

中期的な計画の作成にあたっての意見

安芸太田町長 佐々木清蔵

災害に強い道路整備

中山間地で地形が急峻であるため災害が多発し、幹線道路や生活道路が通行止め、通行規制となることがしばしばある。地域住民の交通手段は公共交通（バス）を始めとする道路の利用が全てであるため、道路災害はそのまま「地域の孤立」となってしまう。

高齢化が進み、交通手段の限られる中山間地域の住民の生活を守るために道路防災対策（トンネルも含む）に投資し、災害に強い道路整備を図っていただきたい。

地方道路の整備

直接住民の生活道路である県道・町道は幅員が狭小なものが多い。それらを改修改良しようにも市町の多くは例外なく財政が逼迫しており単独での事業化は難しい。道路の補助制度をさらに有利で使いやすいものにしていただきたい。それには道路特定財源が必要である。

老朽橋の更新

戦前国策として発電事業が推進された際、また戦後復興の中、さらには高度成長期に架けられた橋梁が老朽化し、更新時期を迎えている。また、今日の河川計画と整合性を持たず、河川の流下阻害の要因となっている橋梁も多い。これらを架替えるためには短期間に多くの予算が必要であり、地方はその負担に耐えられない。これらに積極的な補助をいただきたい。そのため、道路特定財源をできるだけ道路事業に充当していただきたい。

電線の地中化

直接的に住民の生活に関わる道路の中には幅員が狭小なものが多い。またそれらの道路は市街地の中にあり両側に家屋が張り付き、拡幅が困難な場合がある。このような場合電柱の地中化は大変有効であり、景観の改善はもちろん交通の利便にも大きな効果をあげることができる。このような真に住民生活に密着した事業を推進するために、道路特定財源の有効利用を図っていただきたい。

財産としての道路整備

リサイクル（Recycle）・リデュース（Reduce）・リユース（Reuse）が叫ばれるこのごろ、今ある道路を大事に使っていくことは、新規投資に匹敵する重要施策である。全国に張り巡らされている道路網を積極的に維持管理し、大事な財産として有効に活用することが最も廉価で効率的な道路政策であることを再認識すべきである。そのために、道路特定財源の一部を道路維持の財源、R.R.R【道路更新財源】（造語：※1）として各道路管理者に配分していただきたい。

※1 Road Renewal Revenue（安芸太田町の造語です。）

道路のバリアフリー化

少子化、高齢化が進む中、また弱者への配慮が求められる中、道路はあらゆる生活者に優しくあることを求められている。道路のバリアフリー化は、最も身近な対策であり、重要なものである。道路事業はあらゆる場面でバリアフリー化を意識し、それを積極的に実施すべきであり、そのための予算措置が必要である。